

IV. 分担研究年度終了報告 (5)

サリドマイド胎芽症 2016 年度検診における画像検査の総括

分担研究者 田嶋 強 国立国際医療研究センター病院 放射線診療部門 / 放射線診断科

本年の活動内容は以下の 1) ~ 3) である。

1) 胎芽症者の健診を実施。その内容は下記のごとくである。

- ・今年度は 2016/10/21, 2016/011/18, 2017/1/27 の 3 日間に分けて検診を実施した。
- ・健診受診者は 7 名、(男性 3 名、女性 4 名)。
- ・実施された健診における放射線関連検査の内容は、CT 7 名 (100%)、MRI 0 名、骨塩定量 7 名 (100%)、マンモグラフィ 4 名 (女性全員、100%)、胸部単純 X 線写真 7 名 (100%)、頸椎単純 X 線写真 7 名 (100%) である。
- ・実施された CT 検査の内容は、頭部 7 名 (100%)、頸部・椎体・四肢・筋、体幹部 7 名 (100%)、肪測定 (内臓脂肪) 2 名 (29%) であった。その具体的な結果は表 1 ~ 4 のごとくである。

主な疾患の発現率は以下の通りである：塊椎：1/7 (14%)、無胆嚢症：0/7 (0%)、変形性頸椎症：6/7 (86%)、潜在性二分脊椎：3/7 (43%)、側頭骨パート (耳小骨、三半規管、外耳道など) の形成異常：3/7 (43%)

これに加えて、DEXA 法で実施された骨塩定量の結果は、若年者と比較した値が大腿骨頭で平均 75.6%、腰椎で平均 88.4% といずれも低下し、ことに大腿骨頭における低下が顕著であった。

さらにマンモグラフィは 4 名全員ともにカテゴリー 2 (良性石灰化) であり、悪性所見は認められなかった。

2) サリドマイド胎芽症者に対する診療ガイドの作成

普段サリドマイド胎芽症者の検診において留意していること、検査や読影の流れなどについて、当部門の診療に特化した内容で「サリドマイド胎芽症診療ガイド 2017」を作成した。執筆担当者は以下のごとくである。

1. 放射線科検査の準備：皆川 梓
2. 一般撮影領域 (胸部 X 線撮影・骨塩定量測定・マンモグラフィ検査)：皆川 梓
3. CT 検査：篠崎 雅史

4. MRI 検査：原田 潤

5. 画像診断：田嶋 強

詳細な内容については、総合報告書の別添冊子「サリドマイド胎芽症診療ガイド 2017」を参照のこと。

3) 第 2 回サリドマイド胎芽症研究会における口頭発表

日時：2017 年 2 月 18 日 (土) 午前 10 時 00 分 ~ 午後 4 時 30 分

内容：放射線科診療と評価

- 分担：① 皆川 梓：一般撮影 (診療放射線技師の立場から)
- ② 原田 潤：MRI 撮影 (診療放射線技師の立場から)
- ③ 篠崎 雅史：CT 撮影 (診療放射線技師の立場から)
- ④ 横山幸太：画像診断について (画像診断医師の立場から)

4) 今後留意すべき問題点

今回の検診で注目すべき点は、脂肪測定における内臓脂肪蓄積型肥満 (2/2, 100%)、変形性頸椎症 (6/7, 86%)、骨粗鬆症 (7/7, 100%) など生活習慣病や加齢性変化の頻度が増加している点である。

今後は加齢に伴う問題に注目し、必要に応じてフォローアップ検査を実施していく必要がある。内臓脂肪蓄積型肥満や骨粗鬆症などについてもフォローアップしていくとともに、栄養管理の面でも対応が必要と思われた。

表 1. 頚椎・体幹部 CT の結果

性別	年齢	診断結果	
		頚椎	体幹部
F	54 歳	変形性頚椎症 (C4) 口蓋扁桃の発達	異常なし
F	55 歳	塊椎 (C7-T1)	右中葉慢性期非特異的炎症性変化
F	54 歳	変形性頚椎症 (C3-C7)	異常なし
F	54 歳	変形性頚椎症性 (C5)	右肺下葉慢性炎症 脂肪肝 前方迂り症 (L4)
M	54 歳	変形性頚椎症 (C4-C7)	腰椎椎間板ヘルニア 仙椎 S3-S4 : 潜在性二分脊椎
M	54 歳	変形性頚椎症 (C5-C7)	L5、S3-S5 : 潜在性二分脊椎
M	54 歳	変形性頚椎症 (C4/5, C5/6)	L4、L5、S2、S3 : 潜在性二分脊椎

表 2. 頭部 CT の結果

症例 番号	性別	年齢	診断結果	
			頭部	側頭骨
1	F	54 歳	異常なし	異常なし
2	F	55 歳	異常なし	異常なし
3	F	54 歳	異常なし	異常なし
4	F	54 歳	ごく軽度の副鼻腔炎	両側慢性中耳炎 両側外半規管の低形成
5	M	54 歳	異常なし	異常なし
6	M	54 歳	異常なし	右蝸牛、右三半規管、左外側半規管、左翼突管（無形成）の形成異常
7	M	54 歳	異常なし	右外耳道の著明狭小化（骨性および軟部組織増生） 左外耳道の無形成 両側耳小骨（ツチ骨およびキヌタ骨）、両側乳突洞、両側内耳道、左蝸牛、左三半規管（無形成）の低形成

表3. 脂肪測定（内臓脂肪）の結果

症例番号	性別	年齢	結果	V/S 比
1	F	54 歳	内臓脂肪蓄積型肥満	0.976
2	F	54 歳	内臓脂肪蓄積型肥満	0.680

脚注：V/S 比 \geq 0.4 を内臓脂肪蓄積型肥満とした。

表4. 一般撮影・骨塩定量等の結果

番号	性別	一般撮影			骨塩定量 (%)			
		頸椎	胸部	マンモグラフィ	大腿骨頭 若年者	大腿骨頭 同年代	腰椎 若年者	腰椎 同年代
1	F	異常なし	左肩甲骨・ 左上腕骨の 発達不良	カテゴリー2 (良性石灰化)	73	85	85	95
2	F	異常なし	異常なし	カテゴリー2 (良性石灰化)	63	74	68	79
3	F	変形 性頸 椎症	左肩甲骨関 節窩の変形	カテゴリー2 (良性石灰化)	76	90	88	100
4	F	変形 性頸 椎症	左上腕骨低 形成	カテゴリー2 (良性石灰化)	68	80	81	91
5	M	変形 性頸 椎症	左上腕骨頭 低形成	NA	86	95	116	124
6	M	変形 性頸 椎症	異常なし	NA	86	95	94	101
7	M	変形 性頸 椎症	異常なし	NA	77	85	87	93